

思春期の

子どもの力を引き出す 子育て

～CAP おとなワークショップ（子どもへの暴力防止プログラム）～



子どもたちは、いろいろな関係、いろいろな世界とつながっています。

中学校 1 年生を対象とした子どもワークショップの前に開催される、おとなワークショップをご案内いたします。

行動範囲と人間関係が急速に広がっていく思春期の子どもたち。今まではとても近い存在だった親と距離を置きはじめ、自分たちの世界を築きあげていく子どもの周りには、インターネットや雑誌などからのあらゆる情報が溢れています。さまざまな誘惑や暴力に遭遇したときには、子ども自身が自分の力で危険を回避するための知識と判断力も必要になるため、まずは大人が正しい知識を得て、子どもに伝えることが大切です。具体的に知っていれば未然に防ぐことができる場合も多いのです。

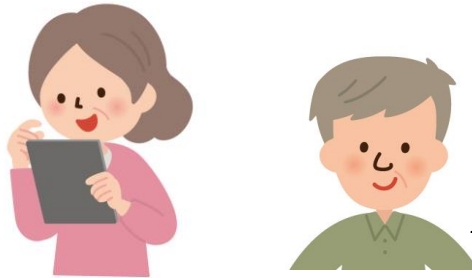
「むずかしい」といわれる思春期だからこそ、普段からの子どもへの関わり方や、何か問題を抱えたときにどうすればいいかを知っておくと大人も安心です。講座を受講することで、大切な思春期を見守り、支える子どものよき理解者・相談相手になるコツとスキルが身につきます。是非ご参加ください。

日 時	2014年〇月〇日(〇) 00:00～00:00
場 所	那覇市立〇〇中学校 〇〇室
対 象	保護者、教職員、地域の方、関心のある方はどなたでも
講 師	NPO法人おきなわ CAP センター
内 容	子どもを取り巻く暴力とは、思春期の子ども理解、人権意識を育む、話の聴き方、おとなにできること、中学1年生ワークショップ体験、他

—2018 年度実施したアンケートより—

保護者からの感想

暴力、人権などの言葉の意味を理解することや、対処法を学ぶ機会があるのとないのには、その後の行動が大きく変わると思いました。とても良い事業だと思います。



ただ「ダメ」と言わず、「人権」とは何なのか、被害者も加害者にも人権があるのだという教育がとても良かった。

2人の子どもが思春期の難しい時期に直面していますが、今は大丈夫でも、これからの心構えになりとても参考になりました。

中学1年生からの感想

今まで社会や道徳で人権について勉強してきたけど、ここまで深く考えた事はなかった。今回のワークショップで、どんな事が人権で、どんな事が暴力かを劇などを通して楽しく学ぶことができてよかったです。

人は、1人1人権利というものをもっている事がすごく心に残りました。だから、人が人をいじめることはダメなことが深く理解できました。

被害にあいそうな時のたいしょの仕方を覚えられたので、役立てられる時に役立てたいです。人権について、知らないことが知れてとてもよかったです。もっと知りたいです。



「人は体が傷つくと心も傷つき、心が傷つくと体もおかしくなる」ということが心に残りました。友達が困っているときには、話を聞いてあげて、1人ではできないというのなら一緒に手伝ってあげたりしてあげたいです。

自分の身近で起こりそうな問題をじっくりと一緒に考えて、とても楽しかったし、すごく勉強になりました。これからは困っていることがあったら信頼できる人に相談したり、困っている人がいたら助けてあげたいと思います。

先生からの感想

私たち大人でも認識不足なところもあり、生徒同様大変勉強になりました。自分を大切にする事の大切さ、自分の気持ちを伝えることの大事さ、相談することは解決への第一歩など、安心して生きることを考えるととても貴重な時間となりました。



生徒が自然体でCAPのワークショップに参加しており、人権等のお話もわかりやすく説明してくれていて、生徒の心に残る時間になったと思います。ロールプレイ等、実際に起きてしまったとき、どうすればよいか判断できるきっかけをつくってもらい感謝しています。



CAPとは…Child Assault Prevention(子どもへの暴力防止)の頭文字をとったものです。
わかりやすい言葉で人権概念を教え、子どもたちがいじめ、痴漢、誘拐、虐待、性暴力といった様々な暴力に対して何が出来るかを、子ども、親、教職員、地域の人々に伝えるプログラムです。